

# 『亀岡市新資料館構想策定委員会』

## 第1回亀岡市新資料館構想策定委員会 議事要旨録

日時：平成26年9月5日（金） 10時～12時15分

場所：亀岡市文化資料館3階研修室

参加者：策定委員（50音順、敬称略）

浅田 勝彦・伊多波良雄・大野照文・加藤美智恵・小林丈広・関口征治  
田中美賀子・田中 弥生・田中曜次・中井 伸男・永光 寛・西田めぐみ  
原田 禎夫・船越 卓

事務局：亀岡市教育委員会

教育長：竹岡敏 教育部長：木曾布恭 社会教育課長：樋口隆久

文化資料館長：黒川孝宏

文化資料館職員：土井孝則・八木めぐみ・上甲典子・鈴木亜香音

（株）日展：戸田泰史・小川英樹・林野雄一郎・中村嗣

次第：1 開会

2 委嘱状交付

3 教育長あいさつ

4 委員自己紹介

5 委員長・副委員長選出

6 協議項目

（1）文化資料館のあゆみと新資料館構想策定の取組みについて

（2）新資料館構想策定の検討項目と今後のスケジュール案について

（3）文化資料館友の会 新資料館構想の策定に向けての提言書について

（4）夢ビジョン「自然・文化・次代継承」ワーキンググループ 新資料館構想策  
定に向けたアンケート分析について

7 その他

8 閉会

### 1 開会

・定数を満たし（全委員出席）、本委員会開催は成立。

・委員会は公開とする。

### 2 委嘱状の交付

### 3 教育長あいさつ

## 4 委員自己紹介

## 5 委員長・副委員長選出

- ・会長の委員の互選となっている。
- ・事務局一任でよいか。

### 事務局

- ・委員長には大野委員、副委員長には永光委員を推薦する。

### 一拍手で承認一

- ・議事録のホームページに掲載公開について

亀岡市では、「審議会等の設置及び公開に関する指針」に基づいて、議事録等をホームページ上で公開している。当委員会においても議事録等の公開を行いたい。

あわせて、傍聴についても行いたい。

### 一拍手で承認一

### 委員長挨拶

・資料館では、過去のそれぞれの資料が物語ることはできないが、それを知恵でもって宝にし、それが市民に活用され、誇りを持って頂けるとともに、知育だけではなく心をどう育てるのが重要であるとする。それは年齢に関わらず様々な人が活用できるものだと考える。

- ・資料に基づく事が重要となる。

・世界中の大学が博物館の見直しを始めており、特に東アジア地域の大学では自分たちの伝統や歴史を、学生あるいは将来学生になる人達に示す事によってその魅力をアピールし、次の世代へ大学も発展進化し、そこで学生も学ぶというような体制を準備しつつあるように思う。街が活性化するためには歴史や伝統、そしてそれらが共有され、実感して頂ける開かれた拠点とする必要があるのではないか。新しい計画がそういった場になるよう、審議していきたい。

## 6 協議項目

### (1) 文化資料館のあゆみと新資料館構想策定の取組みについて

### 事務局より説明

・文化資料館のあゆみとして、昭和 30 年に亀岡市が誕生し、その 10 年後からの文化財保護行政の歩みを簡単に年表にした。文化財保護条例の施行という事も大きな出来事であり、その次に昭和 60 年に亀岡市文化資料館が開館する。以後の大きな動きとしては、『新修亀

岡市史』の刊行が取り上げられる。この市史刊行が終わり、平成 17 年には市史収集資料が資料館へ移管された。現在の建物は亀岡市の女子技芸専門学校新校舎として昭和 49 年に建てられ、昭和 60 年 11 月に亀岡市文化資料館として改造してオープンした。開館以降、施設的に修繕工事が続き、平成 16 年度には、市史収集資料が保管される 3 階部分の屋上が防水改修された。

・『新修亀岡市史』全 8 巻の概要としては、平成 3 年から平成 16 年までに全 8 巻、本文編 3 巻、資料編 5 巻の市史となった。体制としては、編纂委員会、専門委員会、各部会を持っていた。調査資料群の件数は 1333 件。これは全て収蔵しているというわけではなく、資料調査のために借用し、写真を撮影してお返ししている資料も多数含まれる。市史収集資料公開とは、市史編纂事業後の活用として文化資料館事業に新たに取り入れた公開事業である。また事業のなかでのレファレンス、事業提携などについては報告連絡用紙で記録している。

・新資料館構想の策定について、大きな柱としては、第 4 次亀岡市総合計画、もうひとつ、亀岡市教育振興基本計画が挙げられる。まず第 4 次亀岡市総合計画～夢ビジョン～は前期 5 年として平成 23 年から平成 28 年までとなっており、将来の街づくりの基本的な指針としての役割を担うものとして作成されている。今年度は平成 26 年なのであと 2 年残しており、この後、後期 5 年が控えている。基本計画の第 4 章、「豊かな心と文化を育むまちづくり」文化芸術・歴史文化の節で新資料館構想の策定が記されている。新資料館の建設に向け建設箇所や規模、機能などについて市民と行政が一体となって、資料館の将来像の作成を求めている。

・もうひとつの大きな計画として、亀岡市教育振興基本計画がある。亀岡教育プランと呼んでいる。期間は平成 25 年から平成 32 年となっている。重点目標の内、目標 6.「歴史・文化・自然の保存継承と発信」の中の重点施策のひとつに新資料館構想の策定と拠点整備という具体的な文言が記されている。

・文化資料館としての新資料館構想策定への取組みとして、平成 22 年度から活動を始めている。資料館の将来を考えるためのランニング・シンポジウムを全 3 回おこなった。人づくり、街づくり、未来づくりという事で進められた。平成 23 年度では、夢フォーラムを 2 回おこなった。次に平成 24 年度は「みんなで作ろう、わたしの資料館」というキャッチフレーズを作り、4 回の講演会をおこなった。次に平成 25 年度は「子どもと楽しむ資料館」という事で、2 回のワークショップを催した。今年度は「新資料館構想策定委員会」を設置し、年度末には中間報告を作成する予定である。

・夢ビジョンでの取り組みに「住み心地向上プロジェクト」「自然・文化 次代継承プロジェクト」「にぎわい創出プロジェクト」という 3 つのプロジェクトがある。そのうちのひとつ、「自然・文化 次代継承プロジェクト」のグループでは、資料館に関する事を活発に議論している。

・友の会は平成元年に設立されており、現在の会員数は 79 名。最近は友の会のなかのサー

クル活動が大変活発化している。また、友の会の方々にまとめられた新資料館構想の策定に向けた提言書がある。昨年度はアンケート、フォーラムを実施して、今年度に提言書を作成していただいた。

- ・施設内部についてスライド写真をもとに紹介。

## (2) 新資料館構想策定の検討項目と今後のスケジュール案について

### 事務局より説明

- ・平成 26 年度、4 回の委員会を予定。1 回目は検討項目と今後のスケジュールの確認。2 回目以降、現在の文化資料館の現状を把握した上で、新しい資料館の理念であるとか、方向性を打ち出す。3 回目は、新しい資料館にはどのような機能が必要になるのか、展示、調査、研究、普及活動について検討。4 回目は、利用者側からの利用者主体の部分の検討を予定している。

- ・平成 27 年度は新資料館設備の方向性や規模、そして立地条件や立地環境について検討し、7 回目で新しい資料館の管理体制、もしくは新しい資料館に向けて実現するために、今後の進め方を検討。8 回目で新資料館構想の原案を取りまとめ頂き、パブリックコメントを実施。9 回目はそれも反映させた形で、原案を確認し、確定する。

- ・先進地視察として、今年度は岐阜県美濃加茂市の「みのかも文化の森」を考えている。

### 委員長

- ・説明のあった内容についてのご意見、ご質問はあるか。
- ・基本構想に掲げる「目指す都市像」を実現していくため、市民・団体・事業者・行政が同じスタートラインに立ち、検討し、取組むことで、今までとは違う意思決定の仕組みを構築するまちぐるみの新しい挑戦である。このシンボルプロジェクトの実質化を考える必要があるのではないか。

### 委員

- ・以前、「自然・文化 次代継承プロジェクト」で、中学生、高校生の皆さんに資料館へお集まり頂き、資料館ってどう？という質問をした際、なぜバス停が資料館前にないか？という意見が出た。中には辛辣な意見もあった。世代を超えて、実際話を聞いてみるのが非常に大事だと思う。

- ・子供ならではの視点は、未来の問題にも関わってくる。従って、新資料館構想をつくっていく中で具体化するものが順次出てくると思うが、その過程でやはり若い世代がしっかり議論に参加してもらう仕組みを、今回の委員会のなかでご議論頂ければと思う。

### 委員長

・総合学習の観点の中で、調べ学習をして、それを発表してもらうような場ができると、そういう学習が未来に繋がるとともに、学校現場での教育にも繋がり、それはまた資料館の未来にも繋がるという事であると思う。

## 委員

・委員長の挨拶で、各国において博物館の見直しがおこなわれているということだが、そういう事に関する情報を提供してもらうような場を一度作って頂きたいと思う。こういう委員会は、何かここだけの議論に終わり、地域の事だけを考えてやっている傾向があるので、亀岡が、日本だけではなく、世界に向けてとまでは言わないが、少し開放的になり、周りの状況も考えた上で、さらに一步進むような形で議論する必要があると思う。

・若者も含めて市民の意見をどこまで構想の観点の中に取り組んでいくかが重要だと思う。

## 委員長

・新しい試みとしてシンボルプロジェクトおよび構想の作り方の過程が、ひとつ見本になるように進めるべきだと考える。実際にそれに基づいて実現した時には、その実現したもの自体が世界に発信できるような意味合いが光放つという事を念頭に入れて、新たな要素を入れながらダイナミックに議論していければと思う。

## 委員

・民間人がこのような委員に入らせて頂いている意味というのは、新しい事をどんどん入れていこうという覚悟を持って、進めたいと考えている。

## 委員

・委員会「独特」の雰囲気もあるのではないかと思います。

・SNS、facebook、twitter などに出てくる意見もしっかりと活用していく。資料館をみんなで応援しようという facebook ページをシンボルプロジェクトで立ち上げたので、議論の過程もお知らせし、意見や批判も含めて同様の扱いとするような事を、提案できたらと考えている。気軽な意見もしっかりとした意見として受け止めるべきである。

## 委員長

・それぞれ考えが様々あって、それをどのように反映するのかという事で、新たな人達と出会い、意見交換するという事だと思う。我々自身がお互いに意見をどう結びつけるか。考え方の多様性を大切にしていくということ。大事なことは、みんな違う意見を持っているなかで、その意見の総体を我々が集約する。亀岡からひとつのモデルケースとなって、世界発信するという意気込みで考えていただきたい。

## 委員

・市の評価については、利用頻度が大きく影響を及ぼす。ただ単に複合施設を作るとかというのではなくて、おそらくその過程で、うまくいくためにはどういう事が必要であるかの議論になるべきだと考える。現在の行政ではできないではなく、そのためにはどういうふうにしなければいけない、という事まで含めて考えて議論してほしいと思う。

## 委員長

・市の策定されたプロジェクトの中で、一基本構想に掲げる「目指す都市像」を実現していくため、市民・団体・事業者・行政が同じスタートラインに立ち、検討する。そして、今までとは違う意思決定の仕組みを構築するまちぐるみの新しい挑戦です。ーとある。つまり新資料館構想の策定に向けての委員会の取組みは、当然この考え方の中で実施されるものだと思う。

## 委員

・シンボルプロジェクトの中にこの策定委員会が入っているのではなく、画期的な取組みとして作ったシンボルプロジェクトのひとつである「自然・文化 次代継承プロジェクト」で「新資料館構想」について考えている。

## 委員

・中学の総合的な学習は探究的な学習という事で、8 中学あれば 8 中学 8 通り、3 学年  $3 \times 8 = 24$  通りの総合的な学習が進んでいて、そこには必ずしもこういう歴史的な要素だけで出来ているわけではない。各学校、各学年によってそれぞれが違う内容で進んでいると思われる。いずれも「亀岡学」がものすごく大事にされているので、「亀岡学」という括りで考えるのも面白いと思う。

## 事務局

・各種意見が出され、今後の基本的スケジュール案については、一応の了解を得た。

### (3) 文化資料館友の会 新資料館構想の策定に向けての提言書について

#### 友の会員の委員より説明。

・資料 4.と書いてあるところに、資料館友の会の概要が紹介してある。初期の活動として、研究活動と調査報告書の刊行があるが、今先進的な博物館で取り組まれていることを既に 20 年前にしていたことをお伝えしたい。

・現在、4つのサークル活動と、新修亀岡市史を読む会があり、新修亀岡市史を読む会は読書会形式でやっている。

・友の会の新資料館構想にむけての提言については、10 項目ある。1.亀岡の歴史が分かる

ところ。2.亀岡の民俗を伝えるところ。3.亀岡ゆかりの人物について知るところ。ここでは特に円山応挙について注目していただきたい。4.亀岡の宝物を守り伝えるところ。ここでは歴史文化だけでなく、やはり自然というものをたくさんの人が亀岡の魅力と考えているので、新資料館では自然が重要な項目になった。学芸員の仕事の重要性や、人員面の拡充についても言及した。5.あらゆる市民が利用できるところ。子どもから大人まであらゆる市民が利用できるところといった考え方。6.重要文化財を展示できる施設。7.市民協働の資料館。8.広報は、資料館の命。インターネット時代に則した活動がやはり資料館の価値を高めるのではないか。9.新資料館に希望する施設について。10.新資料館の設置場所について。以上、10項目である。

### 委員長

これらの項目は、先ほどの議論の中でも出たものなので、皆さんが非常に高い意識を持っておられるという観点から心強くなった次第である。

### (4) 夢ビジョン「自然・文化・次代継承」ワーキンググループ 新資料館構想策定に向けたアンケート分析について

#### アンケートを分析担当した委員より説明

・アンケートは去年の10月頃から行っている。今回のアンケートでは、資料館の位置づけ、資料館の評価も含めてアンケートをした。統計的な作業を終えて、大きな矢印のところは統計的に有利であるという事。専門的にいえば、コントロール変数も入れた上でこうした結果が出ている。

・幸福度に関してはご意見があると思うが、特にここでは話はしない。あなたはどれだけ幸福ですか、と5段階評価で聞いているが、アンケートでは資料館を利用するという事が幸福度の増大につながるという結果が出ている。

・亀岡市の、例えば雇用政策、環境政策。他にもこういうところがいいといった高い評価をする人は、文化資料館を利用している傾向がある。行政に対する信頼感が高いと各種事業への参加率が高くなるという結果が出ている。

・属性は女性が多く年齢は60代が非常に多い。サンプル数は800名。亀岡市の人口が10万なので、大体1000人前後で有効な結果が出るので、統計的には800はギリギリの信頼性のある結果を出せる数である。居住年数は30年以上が多い。シミュレーションCは、無職と契約社員、それから正規社員という事になり、学歴は高校が多い。年収も聞いており、500万以上、500万未満が多い。

・第1番目は亀岡市に対する評価で、自然環境・住環境・治安・育児・医療などについての行政サービスに対する評価が、住環境や自然環境よりも高いという結果が出た。アンケートでは亀岡市の評価はある程度高い。ただ所得水準評価はちょっと低い。農産物・保津

川・心をなごますというような自然環境が非常に大きいという事になった。

- ・シンボルプロジェクトに対する関心は、大変関心が深いという事。亀岡市文化資料館の利用状況は、810人中、589名がまったくない。これは全体の75パーセントで、市民が今だいたい10万なので、すなわち7万5千人が利用していないことになる。逆に言うと、利用者を広げる余地がかなりあるという事を示している。

- ・利用された方への質問では、歴史や文化が好きだから。興味のある企画展や講演会があるから。近くの別の用事で行ったからなどがあがっている。講演会への参加や歴史・文化が好きだからという理由で文化資料館に来ている人が多い。また別の言葉でいうと、これ以外の目的の人を全然取り込めていない、事にもなる。

- ・文化資料館に対する評価に関しては、展示の内容、広さなど多くが高い評価になっているが、交通の便が大変悪いということ。文化資料館に行かなかった理由としては、きつかけがなかった。交通手段、時間がない、場所が分からないなどがあつた。

- ・今後、市民が他市からの方を案内したくなる新資料館という点では、観光施設、憩いの場、すべての世代が学習できる、歴史や文化を知ることができる、子供が楽しめる、ショップが充実しているなどの要望があつた。こういった要素は先ほど文化資料館をなぜ利用しますか？という理由にはないようなものになっている。学びたいことには、歴史、自然環境、そういったものが当然ある。

- ・新資料館に期待することは、環境についての紹介、重要文化財の公開、特別展の開催、いつでも参加できるイベント、亀岡の自然の調査、各種イベント、フリースペース、積極的な広報活動などかなりの多様な期待がある。展示以外では、休憩室、天体観測、レストラン、開放的なカフェ、植物園。これも現在の文化資料館では提供していないようなものに対する要望が多い。

- ・新資料館のあり方として、図書館など社会教育施設との複合施設。それから商業施設との複合施設という事で、複合施設に対する要望が多い。これも裏返してみると、多様な機能を要求しているという事になる。

## 委員長

- ・友の会提言書及びワーキンググループによるアンケート結果の分析はともに非常に重要な資料と言える。これから新資料館構想策定の議論を進めていく上で、利用者、市民の重要で貴重な意見であり、それらが提示され委員会として共通認識できたことは有意義であつた。

## 7 その他

### 事務局

- ・2回目以降の策定委員会の開催の日程の調整などは株式会社日展にお願いしたい。
- ・次回の委員会の開催は、10月の下旬か、11月の上旬を考えている。

## 8 閉会